

■ ■ ■ 編 集 後 記 ■ ■ ■

コンサルタンツ北海道 115 号が皆様のお手元に届くのは、ちょうど北海道洞爺湖サミット開催の直前だと思います。サミットのテーマは、「環境・気候変動」「開発・アフリカ」「世界経済」「不拡散をはじめとする政治問題」で、どのテーマも世界規模の連携で対応すべき課題です。北海道では特に地球環境に関するイベント、シンポジウムなどが多数開催されており、またテレビ・雑誌などを通じて ECO をテーマとした番組や情報をほぼ毎日目にするようになりました。環境意識の高揚に効果があったように思います。

本号にハマボウフウの寄稿が掲載されていますが、私の実家では数年前から食料の自給自足の練習に小さな畑に野菜を植えています。

とはいえ私は収穫専門で、育成は母がやっています。今年も 5 月に苗を購入し植えましたが、その直後から寒い日が続き茄子の苗が 1 本死にました。我が家の茄子 1 本は小さな話ですが、富良野の農家で収穫間近のアスパラが霜で全滅したなどという話を聞くとその経済的な影響と育てたものを出荷できずに終わった農家の落胆に対し、低コストで被害を防止する対策はないものかと思います。

話は変わりますが、水産業では燃料代の高騰に対し、全国の小型イカ釣り船の 7 割に相当する船が現在休業中です。漁業の操業等における省エネ技術が開発されていますが導入はなかなか進みません。経費削減の努力と、生産地価格の向上が課題です。私が住んでいる函館では、漁火が函館山の夜景の一部になっています。その光がいつまでも続くため、地域と結びつく技術と研究が一層重要になると思っています。

(第 115 号 編集担当 古屋 温美)